

むさし野

No.29

事務局 〒350-0822 川越市山田912-7 石井方
電話 049-225-2466
E-mail:ishii.0525@r8.dion.ne.jp
ホームページ: <http://www.longview.jp/musashino/>

20年目の平成に想うこと 筑井信明（朝霞市）



明けましておめでとうございます。今年（今年）は元号でいうと平成20年ということになります。私がサラリーマンをやめて自分の会社をつくってから20年たつことになります。40歳になる直前のことです。それからの20年のうちでも仕事の内容を10年くらいで変えています。ということは、私はほぼ10年おきに自分の興味の方向性をも変えてきていたことになります。20歳代最後に転職、30歳代最後に自分で仕事を始めたわけですが、10年間は当初の目標の業務に熱中、後半の10年間は別の分野に関心がうつり、次第に比重を高めて、これは今に至っています。

論語の有名な言葉に「三十にして立つ。四十にして惑はず、五十にして天命を知る。六十にして耳に順ひ、七十にして心の欲する所に従ひて矩を踰えず」というのがあります。もちろん、これを意識したわけではまったくありませんし、ましてや、10年間でひとつの区切りをつけようというような考えがあったわけではないのですが、やはり20代、30代、40代、50代の区切りに近づくとも自分の生活を変えようという、なんらかの想いがはたらいたのでしょうか。もうここまできたら残りの人生もそんな区切りをつけていきたいと半ば意固地に思うようになってきました。

さて、あと2年たつと私は60歳になります。何かことを始めるにもその1～2年前から準備がかかりますから、そうすると現在すでにそれを考え始めていなければいけないわけで、これが目下の（私だけの切実な）問題になっています。ひとつはこれまでやり残して来たこと、あるいは想いながらもできなかったことに挑戦したいという気持ちがあります。次にやや大げさになりますが、人間の生きがいはやはり社会とのつながりですから、これをどうするかです。まったく新しいことを始めるというようなことはないと思いますが、別の形（どんな形？）での社会参加、社会貢献がキーになることは間違いないでしょう。そして、この場合に、これまでの人生を通してわかってきたもうひとつの重要な要素があります。それは新しい組織作りであれ、新しい事業であれ、何をするにしても、自分がそれまでにしてきた苦労や培った技術や知識そして人間関係（人脈）は決して無駄にはならず、またそこを出発点にするしかないということです。

ここでまた想うことは、この「むさし野会」のような学習・同窓・リクリエーションという複合的な目的を持ったユニークな活動はあまりないでしょう。この会の活動は、今後の私の生き方を考えていく上でも大きな「指針」を与えてくれるものと思っています。2月16日にはまた勉強会があり、当会の多士済々の面々がいずれも興味深い話題を提供してくれることになっています（会合の案内は次頁に掲載）。ぜひ参加して、会話を楽しみましょう。

第14回勉強会報告 菅谷館跡と安岡正篤記念館を訪ねて

飯田桂子（東京都）



11月17日（土）、晴天に恵まれ、東武東上線武蔵嵐山駅に参加者6名（（敬称略アイウエオ順 石井、大野、鹿野、筑井、鳥海、飯田）が集まり徒歩にて、国立女性教育会館に向かいました。小林、青木さんは、それぞれマイカーで現地に到着。会館食堂にて昼食、特別注文の幕内弁当と食後の飲み物に各々が満足感を得て、研修棟108号室へ移動。

1. 講演

財団法人郷学研修所長荒井桂講師による講演が13時から行われました。安岡正篤の安岡教学は、すべて東洋教学を中心とする和、漢、洋の古典と歴史に立脚し、その教えに基づいて説かれた実践の人間学、活きた人物学であり、激動、激変の昭和時代を一貫して指導的立場にある人の精神的拠りどころとして重んじられてきたそうです。畠山重忠ゆかりの地（現在の国立女性会館の地）を選んで、昭和6年に安岡正篤とその弟子達は日本農士学校を創立し、農村の再建を担う人材（農士）達の育成に心血を注ぎ、数多くの人材を世に送り、日本教育史に特筆されることになり、この仕事を生涯の誇りにしていたということです。



女性教育会館の壁に映る櫛の並木とともに

2. 埼玉県立嵐山史跡博物館

講演を終えて、都幾川のほとりを歩くこと約20分、菅谷館跡の一角にある「埼玉県嵐山史跡の博物館」を訪ねて、様々な遺物や再現パノラマ、映像などを通じて比企の歴史がわかりやすく解説されていました。

3. 菅谷館跡「国指定史跡」

鎌倉時代の有力武士「畠山重忠」の居館と伝えられていますが、現在見られる遺物は戦国時代の城郭で、これまで5回の発掘調査が行われて、中世の遺物が出土しています。

城郭は本郭を取り囲むように二の郭、三の郭、西の郭、南の郭が配置されています。各郭は深い堀と高い土塀で囲まれ、敵が容易に攻め込めないようになっています。面積は13万平方メートルあり、昭和48年に国の史跡に指定されました。

4. 安岡正篤記念館（郷学研修所）

昭和2年に日本農士学校を創立し、東洋思想に基づく農村青年の教育を行い、その史跡を伝え、東洋思想に関する文献を収蔵する記念館でした。見学の後、研修所の一角をお借りして会の今後の方針についてのミーティング、そして嵐山駅で解散。ありがとうございました。

第15回勉強会のお知らせ

日時：2008（平成20）年 2月16日（土） 14：00～17：00

場所：さいたま市民会館うらわ 507号室

（参加申込は石井まで）

- 「老化のメカニズム・高齢者の心と身体」（近藤喜代太郎編纂放送 大学教材を参考にして） 講演者 鹿野幸作氏
- 「外国を旅して」（世界を旅して思う それぞれのお国柄） 講演者 大野正雄氏
- 「パキスタンの現状」（ブットー及びシャリフ元首 相の帰国が意味するもの？） 講演者 石井 満氏

講演者の方々には約30分程度ご講演をいただき。その後は、参加者と一緒にフリーディスカッション形式を考えています。役員の方は12：30分よりロビーで役員会。

「六曜」について

青木美枝（深谷市）



「去年今年こぞことし貫く棒の如きもの」と吟じたのは俳人高浜虚子である。

「去年今年」とは、昨日が去年で今日は今年という一年の変わり目をとらえた新年の季語。年の移り変わりをあらためて実感している言葉である。年の変わり目には暦も新しくする。新しい手帳や日記帳を新調し、新しいカレンダーも部屋の見やすいところに飾る。

私がカレンダーを探すときの要素は三つある。第一に絵や写真の美しいもの。部屋に飾って毎日見るものだから綺麗な物に限る。次に日付と曜日の見やすいもの。最後は暦注の六曜が記入されているかどうかだ。

六曜とは、大安や、仏滅などというあの六曜である。出産祝いに行くには、間違っても仏滅の日に行ってはならない。なぜなら仏滅は悪い日で、いい日といわれている大安や友引の日に行かないと嫌がられるからだ。そのためにいい日か悪い日かカレンダーを見て確認する。六曜は日々の暮らしに必要な現代の常識である。厄介なことに六曜は規則正しく巡ってくるわけではなく時々気まぐれを起こす。突然仏滅の次の日が大安ではなく赤口になったりする。その気まぐれの理由が分からないから、六曜の載っているカレンダーを選ぶのだ。

ところが先日「旧暦講演会」に行く機会があった。そこで六曜の気まぐれの理由が氷解した。分かってみればコロンブスの卵と一緒にある。それなりの法則にしたがって六曜は気まぐれを起こしていたのだった。

現在私たちが使っている暦は、地球が太陽の周りを一公転する時間を一年とする太陽暦である。六曜は月の運行と満ち欠けを基準にした陰暦に基づいて作られたものだ。したがって六曜を理解するには旧暦を理解しなくてはならない。だが旧暦の全てを理解することはとても難しい。しかしその一部の六曜の並び方だけは分かったのでここで紹介したいと思う。

六曜は、先勝（せんがち）友引（ともびき）先負（せんまけ）仏滅（ぶつめつ）大安（たいあん）赤口（しゃっこう、又はしゃっく）の順に繰り返す。したがって六日毎に順番良く廻ってくると思うと、先ほどのように気まぐれを起こし、五日目にまた大安がやって来たりする。理由は簡単だ。いま私たちが使っている太陽暦は、明治五年に改暦された太陽暦（新暦）である。六曜は旧暦時代の遺物であるため、旧暦の日付の順に、一定の決まりに従ってその順番を繰り返している。旧暦と新暦とでは当然日付が違うのだから、旧暦の仕組みを知らない現代人が混乱するのは当然である。

まず六曜は、先勝友引先負仏滅大安赤口、の順に繰り返す。陰暦一月から六月までと、七月から十二月までの各月の一日は、先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口に始まり、その順番で月末まで繰り返す。六曜の途中で月が替わる場合はそこで打ち切り、予め決められている六曜の順番通り一日からスタートする。これが六曜の仕組みである。

陰暦は、新月を一日とし、およそ十五日で満月となり、またおよそ十五日で、新月を次の月の一日とする。月が地球を一周するのに約二九・五三日かかり、その十二か月分は三五四・三七日となる。つまりこれが「月ごよみ」の一年となる。この新暦との日にちのずれが混乱を引き起こしているということが理解できた。理解できたとはいえそれは旧暦のごくごく一部に過ぎない。

明治の改暦からたった百三十五年しか経過していないのに、私たちの生活から旧暦のしきたりや言語の理解は、急速に離れてしまっている。古典の世界の理解も、旧暦の知識がないとその本質にたどり着くことは難しい。

今年の私の課題は旧暦の勉強である。



中央に影山さん

ベトナム・ホーチミン市に日本語教師としてやって来て3ヶ月が過ぎようとしている。やっとこちらの生活にも慣れてきて、道を横断するのもだいぶ、うまくなってきた。しかし、油断はできないのがこの国の交通事情である。何しろ歩道と言っても安心して歩くわけにはいかない。いつ逆走してくるかかわからないし、後ろから思い切りピーピー鳴らすバイクの音に最初は飛び上がらんばかりに驚いていた。

今は時折ちらりとにらみつける余裕も出来てきたようだ。自慢にはならないが。

道はところどころ大小の穴があいてるし、時には金属製のパイプのようなものが突き出ている。頭の上近くに何かの線が垂れ下がっているので歩くときには360度見ることの出来る特別な目が必要なようだ。信号機があるところでも公安（警察）がいない時は要注意である。この国の交通事情はきりがないので是非、興味のある方はまだフランスの名残を留めたこの街を訪れてみてください。

私は小さい頃から世界地図を見るのが大好きだった。海の向こうにはどんな国があるのだろう。地平線を眺めながらあれこれ空想しながら、ひそかに大きくなったら、絶対にいろいろな国で暮らしてみようと途方もないことを考えていた。

仕事を通して知り合った日本在住の外国人たちに手探りで日本語を教え始めたのが15、6年前からであろうか。主に媒介語の英語を使いながらのものであったが、いつも壁にぶつかりながらもこの世界は万華鏡のようで毎回新しいことの発見だった。そして自分では意識しないで使っている言葉の振り返りにもなっていた。もっと専門的に学びたい。年老いてもこの世界ならボランティアが出来る。そう思い、早速、媒介語を使用しない直説法を学ぶために420時間の日本語教師養成講座を受けることにした。

日本語教師は、ある程度の専門知識、テクニックも必要だが、それ以上に人が好きでない人には無理かもしれない。プラス、好奇心の塊で、偏見がないことも重要であると思う。現在、日本へ留学するクラスを受け持っているが、南の国特有ののんびりした「ゴム時間」ではどうも能力試験4級の実力も危ない生徒も少なくはないが、毎回、私の教師は生徒たちと思っている。

今、ベトナムはかつてないほどのバブル景気で50パーセントのインフレ率と言われている。経済進出に遅れをとったアメリカが猛烈な勢いで資本を投入しているため、市の中心街のビルは信じられない値段になっているようだ。もちろん日本企業も然りである。その結果、一般の市民は不安を抱いている。長年この地に住んでいる人からの情報からだが、一握りの富裕層は別として国自体が裕福でないので、バブルがはじけても、たいしたことはないとのことだ。

なるほど。南のメコンデルタの肥沃な土地では二毛作ならぬ三毛作以上も可能とか。バナナもマンゴーもココナツも手入れをしなくても自然に実るようだ。見た目はおいしくなさそうだが、どの野菜も果物も味が濃くておいしい。

今、ベトナム人の家庭で暮らす私にとって祖国日本はやはり北国の小さな島国ということ強く認識させられる。南の国特有のおおらかさを来年の帰国まで大いに満喫したい。

◆あとがき◆

あけましておめでとうございます。今年も平穏無事に過ごせればなによりと思っておりましたが、新年号を読み、私ももっと前向きに生きなければと改めて思いました。少しでも夢が現実にならぬよう、会員の皆様と努力いたしましょう。

(鳥海)

